

島根県益田市真砂地区

地域づくりのテーマ：「食育」と「福祉」を主軸に、地域で子どもを育てる“子育てしやすい”まちづくり



①地区の概要

【地区の現況】(令和4年1月末現在)

- ◆人口：323人(高齢化率:53.6%／153世帯) ◆自治会：8
- ◆面積：29.72㎡ ◆市内より約15km(車で約20分)

【地区の魅力】

日晩山(標高744m)の伏流水を利用した米や豆腐が特産品。H23年度から公民館・地域商社・小中学校が連携して開始した「食育活動」が実を結び、現在は社会福祉法人も参画し発展。さらに真砂保育園の「里山保育」は地域住民を巻き込んだ小さな福祉活動として定着しており、これらの複合的でアットホームな取組が、山間部の小さな地区ながらソーシャルイノベーションの事例として地域づくりの専門家からも注目されている。

【地区の課題】

深刻な人口減少に伴い、昨年度は残念ながら公共交通路線が撤退、また中学校が閉校となったが、今春からその跡地で複合施設の建設が始まる。この機に当地区にとって最適な地域の在り方について模索し、全住民と明るい未来を共有し、実践していきたい。また“住める空家”不足から、移住希望者の受け入れ対策の引き続き最重要検討課題である。

②実施団体の概要

【団体の名称】

地域自治組織「ときめきの里 真砂」(H28.4.24設立)

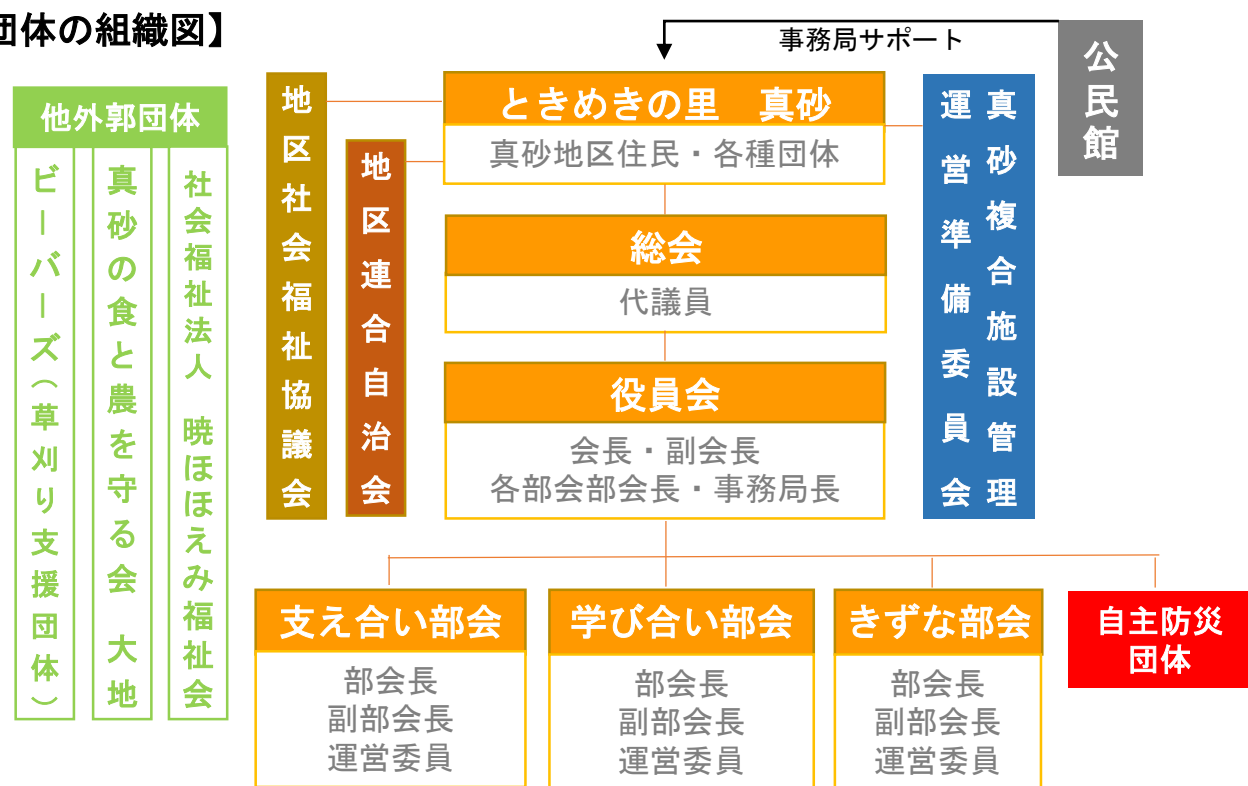
【構成団体、構成員】

- 会長1名、副会長2名、事務局長1名、監事2名、
- 会計・庶務1名、自主防災団体 事務局1名
- ・支え合い部会 (男性3名、女性4名)
- ・学び合い部会 (男性4名、女性2名)
- ・きずな部会 (男性9名、女性8名)

◆他主要活動

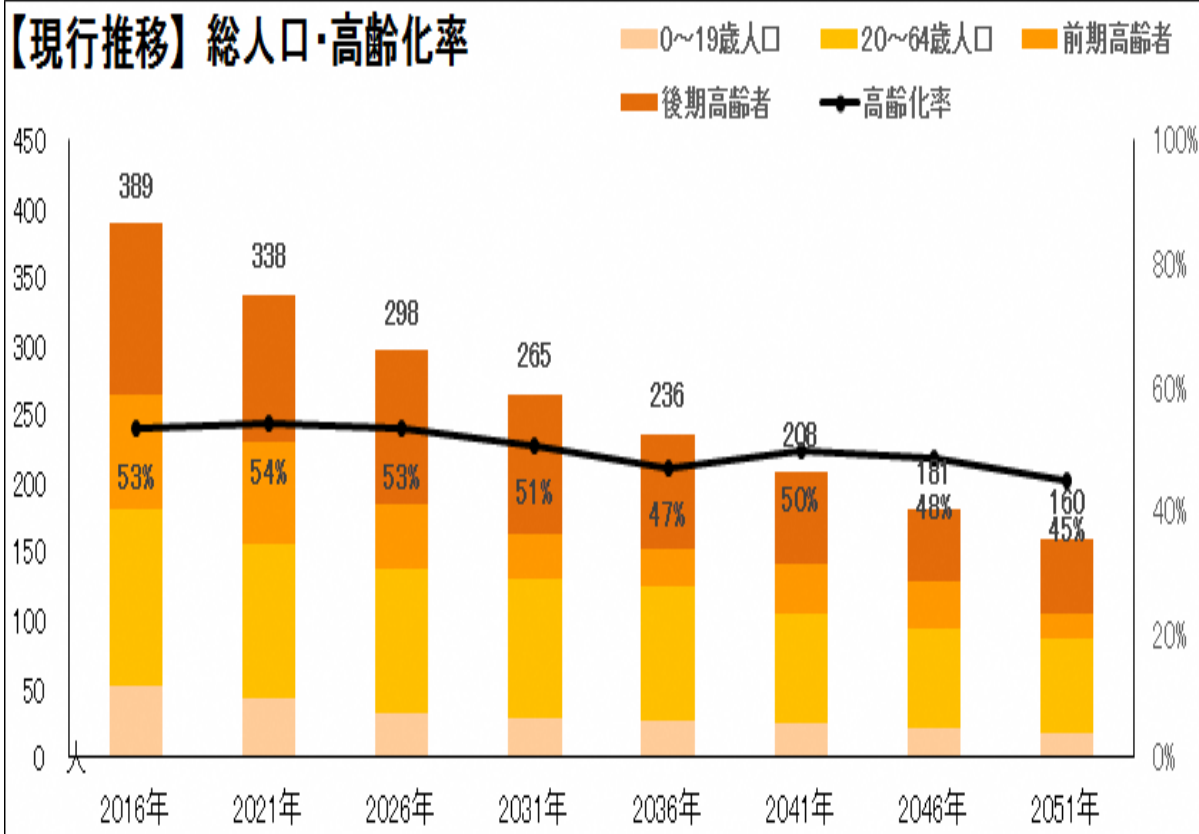
- ・真砂小学校複合化施設建設に関わる対応
- ・交流拠点tele-glue(てれえぐれえ)運営施設管理

【団体の組織図】



③地区の人口シミュレーション(2016ー2021)

【現行推移】総人口・高齢化率



資料：島根県中山間地域研究センター「2021人口推計シート」

④地域の魅力化に向けた取組

◆保育所への給食食材提供

H23年より、高齢者の生きがいづくりを目的に、家庭菜園のあまり野菜を市内保育所や福祉施設の給食食材等として提供しており、画期的なスモールビジネスとして多数の専門家からも評価を得ている。さらに独自の土づくり等で真砂野菜のブランド化を図り、H28年からは市内のレストラン向けに少量ながら西洋野菜の栽培・販売も行っている。

◆子どもたちの食育活動

同年より始めた小学校の授業の中で地域の大人等を講師として学ぶ食育活動は、野菜づくりからメニュー開発、地区内レンタルカフェで飲食提供・接客までを体験し、子どもたちの自己肯定感やコミュニケーション能力の向上、ふるさと教育等に繋がっている。

◆ふれあいバスツアー

交通弱者(主に高齢女性)を対象に、デイサービス送迎車の空き時間を利用し、市内大型ショッピングモールで買い物をした後、真砂保育園にて園児と給食を食べながら交流するバスツアーを月6回実施。(前年度からコロナウイルス感染症防止策により活動を縮小中)



【団体長メッセージ】ときめきの里 真砂も設立6年を経過しようとしておりますが、一昨年より2年間は、経験したことのない世界規模での流行感染症で多くの活動が制限されました。未だ収束の兆しが見えない中、自治組織運営としてはかなり厳しい状況ではありますが、幸いにも当地区では、真砂中学校の統廃合による複合施設建設工事が、今春から年末の完成を目指して始まります。この複合施設が、元気な真砂の未来を担う頑丈でしなやかな骨格となることを目指し、建設中から地域の方々と可能な限り多くの協議を重ね、想いを共有し、完成後の施設有効活用を図りたいと思います。

島根県益田市真砂地区

⑤こんなことが話し合われています



ときめきの里 真砂 役員会

複合施設建設に向け、市担当課との窓口となり協議を続けてきました。11月15日には、真砂まるごとフェスタ後に、小学生を主とする子どもたち向けに複合施設の説明会を実施。今後は複合施設管理運営準備委員会の一員として継続して施設の管理運営について協議する予定です。



真砂複合施設管理運営準備委員会

令和5年に竣工予定の複合施設が、真砂の全住民にとって日常的に利用できる有意義な施設となるよう、2月2日、施設入居予定団体(小学校・公民館・連合自治会・自治組織・暁ほほえみ福祉会)で準備委員会を設立。今後さらに住民ボランティア等を募り活動を広げます。



真砂の交通を守る会

＜デマンドタクシー実証実験事業＞

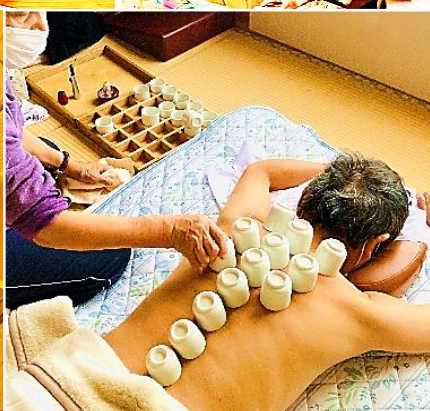
R2年9月末で路線バスの廃線が決定したことから、「真砂の交通を守る会」を再結成し、バスの利用者を中心に聞き取り調査を実施。市と協議を重ね、代替運行として1年半のデマンドタクシーの実証実験を行いました。



イベント実行委員会

昨年度に引き続き、コロナ禍にてさくら祭は中止となったが、真砂保育園・小学校の合同運動会や、まるごとフェスタは規模を縮小し開催。運動会は、例年会場となる中学校が工事中のため小学校での開催となったが、小学校校舎も解体が決まっており、多くの思い出の残る会となりました。

⑥こんな地域づくりを行なっています



支え合い部会

認知症予防カフェ

目的: 認知症の予防と家族へのケア、及び地域全体での理解促進を目的とし、設立以降毎年継続中。

概要: 通常年4回、デイサービスひぐらし苑にて開催(送迎付き)。今年度、コロナ禍で2年ぶりの開催となった12月19日(日)は、23名の方が参加され、益田市健康増進課職員による「ますます元気体操」で体を動かしたり、ビンゴゲームで脳を活性化させるなど、楽しいひとときを過ごしました。



地域活動交流拠点

ひら山のふもとカフェtele-glue(てれぐれえ)

目的: 飲食店のない当地区において、住民が気軽に集まり、飲食しながら地区内外と交流できる場づくり等を目的にH28年にオープンしました。

概要: 誰でも「いちにちカフェ」ができる厨房付きレンタルサロン(保健所の許可申請済)。定期出店は、住民による週2回の「早朝モーニングカフェ」、市内在住グループ企画で3年目となる月イベント「マッサージとランチとおやつ」に加え、今年度からは市内指圧院の出張マッサージも定期開催となった。また12月には(一社)ユタラボが企画したイベント等も開催され、地区外の新たな交流人口増加の機会が創出されました。

学び合い部会

防災ぐるぐるパンづくり体験

目的: 今後、複合施設完成後に向けて進める【真砂方式】の【防災】～日常の交流こそが最大の備えになる～の一環として、有事に備え、楽しく学びながら交流することを目的に開催しました。

概要: 9月12日(日)、真砂小学校の奉仕作業にあわせて、小学生及び保護者と共に「防災ぐるぐるパンづくり体験」を実施。

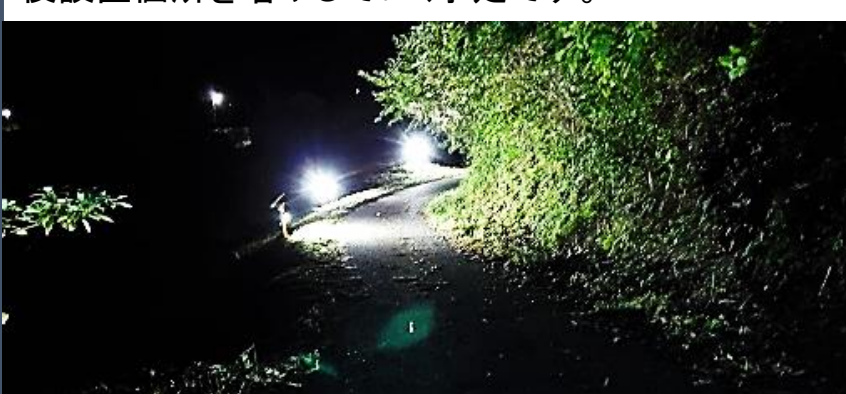
ぐるぐるパンとは、竹に巻き付けた生地を炭火で焼いたパンのこと。奉仕作業の時間帯にパン生地を発酵させるなど効率を考えたスケジュールで、地区食改の皆さんのご協力のもと、(有)真砂の真砂豆腐のおから混ぜ込み、ほんのりおからの甘みがあるもちもちとした食感のパンを焼きあげました。※時世柄、感染対策の上パンは各自持ち帰りました。

自主防災団体

暗い道を無くす環境づくり

目的: 明かりの少ない生活道路や避難経路の暗い道を解消すること

概要: 10月3日(日)、独居高齢者宅への生活通路に、地元自治会の協力を得てソーラーライトを設置。今後設置個所を増やしていく予定です。



お問い合わせ先

【ときめきの里 真砂 事務局】

〒698-0411 益田市波田町イ930-1(元JA真砂支所) TEL/FAX 0856-26-0002(真砂公民館内)

HP(真砂+) <http://masagoplus.jp/>

facebook(真砂+) <https://www.facebook.com/masagoplus/>